

特定非営利活動法人 日本免疫学会
平成 27 年前期 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	目黒 和行	会員番号	0033806
申請者の所属・職名	千葉大学大学院 医学研究院 アレルギー・臨床免疫学 博士研究員		
出席会議名	2015 Annual Congress of the European League against Rheumatism		
発表論文タイトル	Roles of B cell leukemia/lymphoma 3 in the pathogenesis of T follicular helper cells and the pathogenesis of rheumatoid arthritis		

実施結果:

この度は Kishimoto Tadamitsu International Travel Award に選出いただき誠にありがとうございました。岸本忠三先生、および選考委員の先生方に厚く御礼を申し上げます。

私は 2015 年 6 月 10 日から 13 日にかけてイタリア・ローマで開催された 2015 Annual Congress of the European League against Rheumatism (欧州リウマチ学会)に参加してまいりました。欧州リウマチ学会は米国リウマチ学会と並び、リウマチ学分野における世界最大規模の学会であり、今回も関節リウマチをはじめとする様々な自己免疫疾患の基礎、臨床における最新の研究成果が発表されました。本学会では世界の最先端の研究に触れ、また各分野の研究者と直接交流を深めることができ、とても貴重な経験をさせていただきました。

私は Adaptive immunity (T cells and B cells) in rheumatic diseases というワークショップにおいて、関節リウマチの病態に関する自身の研究成果を口頭発表させていただきました。抗 IL-6 受容体抗体である Tocilizumab 投与前後の関節リウマチ患者の末梢血 CD4 陽性 T 細胞内で発現量が大きく減少する遺伝子として B cell leukemia/lymphoma 3 (Bcl3) を同定し、この Bcl3 が T follicular helper cell への分化を介して関節リウマチの病態形成に関与している可能性を報告致しました。幸い、Chair person を含む多くの研究者にご評価いただくことができ、ワークショップ後には複数の研究者と直接ディスカッションさせていただく機会も得て、とても有意義な発表となりました。

本学会では関節リウマチをはじめとする自己免疫疾患について、基礎と臨床の双方向から活発な議論が行われ、シンポジウムやパネルディスカッションでは世界の一流研究者達が今何を一番の問題として捉え、それに対してどのようなアプローチをおこなっているかということを感じることができました。また、国内外で活躍する若手の研究者達とも交流を深めることもでき、今後、海外で研究を行うことを含めて自身の将来を考える上でも非常に有意義な機会となりました。

Kishimoto Tadamitsu International Travel Award にご支援していただきましたことにより得られたこの貴重な経験をもとに、今後も自己免疫疾患の研究により一層励んでいきたいと思っております。